

津鉄・津軽飯詰駅にライター故種村さん文庫

オープン準備着々と

五所川原



種村さんが所蔵していた本を本箱に収める関係者

学生や地域住民 本箱や書籍搬入

津軽鉄道の津軽飯詰駅に13日、「レイルウェイ・ライター」の故種村直樹さん(大津市出身、1936〜2014年)の書籍コーナーがオープンする。今月上旬には、秋田職業能力開発短期大学の学生や地域住民らが本箱や本を搬入。多くの関係者がオープンを心待ちにしている。(猿山結女)

鉄道の魅力などを伝えてきた種村さんが所蔵していた書籍約3200冊や実際に使用していた机が同駅に寄贈された。

本箱を設計、製作したのは、同駅の津軽飯詰駅博物館の内装やカウンターの施工を担当した同校住居環境科の学生たち。新型コロナウイルスの影響で木材が入りにくく、使いやすさを重視して25台を製作。追加で作ったり、壊れても作り直したりできるようにホームセンターで購入できるパイン材を選んだ。
4日に学生3人と後藤康孝校長らが訪れ、本箱24台を搬入した。同科2年の深



本箱を搬入する秋田職業能力開発短期大学の学生たち

渡翔さん(20)は「品質が良く、使いやすいことを意識して作った。製作はほぼ初心者だから難しかったが、喜んでもらえてうれしい」と感謝した。

と達成感をにじませた。
8日には地域住民や種村さんの長女・伏見ひかりさん(54)ら約10人が段ボール約100箱分の本などを搬入。創刊号から数年前までの鉄道雑誌など貴重な本の数々が本箱に並んだ。
伏見さんは「10年くらいいに見られず置かれていた本だった。本が新しい空気を吸って生き生きしているようだ。本を受け入れてくれてありがたい」と感謝した。